

第10回埼玉県競輪事業検討委員会 議事録

- 日 時 令和6年9月24日（火） 13:00～15:30
- 場 所 大宮ソニックシティビル 601号室
- 出席者 岩崎康夫委員（委員長）、小川千恵子委員（副委員長）、栗原千亜希委員、小沼航士委員、中村司委員、東角井真臣委員
※岡村春香委員は欠席

■ 議事概要

- 1 会議の公開について
非公開とすべき情報は含まれないため、原則どおり公開とする。
- 2 議事
議題（1）埼玉県営競輪事業の売上及び課題への対応状況について
議題（2）大宮双輪場のあり方について
事務局より資料を用いて説明

【議事概要】

（議題（1）埼玉県営競輪事業の売上及び課題への対応状況について事務局より説明）

○ 小川委員

2ページにある大宮・西武園競輪場の使用料についてお伺いします。使用料は長年固定のまま変わっていないのでしょうか。西武園競輪場の使用料は大宮の2倍以上となっていますが、本場・場外を含めた開催日数は大宮の方が多いようです。この使用料は適正な金額なのでしょうか。

○ 事務局

使用料に関して、大宮双輪場は県の条例に基づき、売上に応じたパーセンテージで計算されています。本場での使用料は売上の5.26%となっています。同様に西武園競輪場も売上に基づきパーセンテージを設定しており、本場では4.4%、民間ポータルでは0.55%と設定しています。

その計算の結果、大宮双輪場は1.5億円、西武園競輪場は3.8億円となります。これは計算方法による違いから、差異が生じているものです。

○ 東角井委員

使用料として、大宮双輪場の1.5億円は県に支払われ、西武園の3.8億円は西武リアルティソリューションズに支払われる、という理解でよろしいでしょうか。

○ 事務局

基本的にはその通りです。ただ、厳密に言いますと、西武園競輪場は西武リアルティソリューションズが所有していますが、管理運営は西武レクリエーションに委託されています。そのため、実際の支払い先は管理運営を行っている西武レクリエーションとなります。

○ 東角井委員

そうすると、大宮双輪場の使用料は県で循環しているため、実質的にはプラスマイナスゼロのようなものですね。一方で、西武園競輪場の場合、民間企業に支払われるため、県としてはマイナス3.8億円になるということですね。県が自前で運営する場合と民間に借りる場合で差

が生じると理解してよろしいでしょうか。

○ 事務局

基本的にはその解釈で問題ありません。厳密に言えば、大宮双輪場は埼玉県都市整備部が所管しており、競輪を開催する際にはその都市整備部から県営競技事務所が借りる形となっています。県内部の会計処理ですが、その中で予算のやりくりが行われている状況です。

○ 東角井委員

ネット上の年代別利用者層の報告がありましたが、実際に現地でお金を使って現場で購入している人の年代も知りたいと思います。今後、競輪場の改修を進めるにあたって、どの年代が足を運んでいるかは重要です。もし、30代や40代の来場が少なければコンパクトな競輪場でもいいかもしれません。現場での年代層について、感覚で構わないので、教えていただきたいです。

○ 事務局

年齢層の詳細なデータは持ち合わせておりませんが、現場での印象としては、60代～70代の方が非常に多いと感じています。しかし、民間ポータルを通じて若い世代が競輪に触れていることもあり、大きな大会では、家族連れや若い方々が実際に足を運んでいる様子も見受けられます。今後、こうした若い世代をさらに取り込んでいきたいと考えております。

○ 栗原委員

売上に関して、令和5年度は570億円、令和4年度は525億円となっていますが、平成5・6年度も近い売上になっています。一方で、収益は令和5年度が6.8億円、令和4年度が5.5億円で、例えば平成5年度は24.5億円となっています。この違いについてご説明いただけますか。また、ポータルサイトで購入されている方々のシェアについては調査されていると思いますが、今後、競輪学校への入学者数や選手数の推移についてもお伺いしたいです。

○ 事務局

売上と収益の差についてですが、埼玉県では平成19年度から包括業務委託を導入しました。それまでは県が直営で運営していましたが、平成19年度以降、業務を外部に委託することで費用が発生するようになりました。この結果、売上が高くても、包括業務委託以前に比べて県の収益は低くなっています。

なお、包括業務委託により、県は最低保証を設定してリスクを軽減し、業者がインセンティブを得られるような契約を結んでいます。そのため、平成5年度と同様の売上があっても、収益は当時よりも少なくなっている状況です。一方で、経営が厳しい時には最低保証によってリスクが軽減され、運営が安定しています。

次に、選手の将来展望についてですが、現状では競輪学校への入学者数は比較的高い水準にあると思っています。そのため、選手数は維持されており、今後も維持できると考えています。必要に応じて中村委員から補足をお願いできればと思います。

○ 中村委員

選手の応募数はやや減少傾向にありますが、入学する選手数は維持されています。JKAとしては、今後選手の減少を防ぐために選手募集に力を入れていく方針です。

また、収益について補足いたしますが、5ページにチャネル別の売上データがあります。平成5年度当時は主に本場で売上が発生しており、本場での売上が収益に大きく寄与していました。しかし、現在はインターネットでの売上が主流となり、それに掛かる経費もあることから、収益も減少しています。そのため、売上が増加しても収益が減少しているのが現状です。

こうした背景もあり、お客様にはできるだけ本場に足を運んでいただきたいと考えています。

○ 小沼委員

資料を拝見し、様々な新しい取り組みが進められていることは皆様のご尽力の成果だと感じています。

一方で、資料の見せ方になりますが、取組を3つほどの目標にまとめて数値化し、3~4年後の目標にどれくらい近づいているのかを整理していただけると、皆さんも取り組みやすくなり、我々も成果を把握しやすくなるかと思えます。

また、最近行われたイベントについてですが、防災フェスタをNACK5スタジアム大宮で実施しました。イベントを振り返る中で、地域の皆様にとって本当に役立つ施設となっているのか、という課題に直面しました。今回の防災フェスタでは、近隣住民の皆様からご意見をいただきながら運営を進めました。今後、地域の方々や自治会とのコミュニケーションについて、どのように進めていくか、お聞かせいただければと思います。

○ 事務局

1つ目の目標の数値化については、ご指摘のとおりだと考えております。いただいたご意見をもとに検討し、資料の見せ方も工夫しながら、今後の委員会に向けて対応してまいります。

2つ目の、地域とのコミュニケーションに関するご質問ですが、大宮双輪場においても、地元の方々との意見交換の場を設けております。具体的には、地元の自治会で構成される「大宮公園地区環境保全協議会」という団体と、開催日数や検討委員会の結果、記念競輪やイベント時の情報について逐一お話をさせていただいております。また、いただいたご意見には、その都度対応するよう努めております。イベントに関しては、ポスティングや県のLINEを通じた情報発信も行っております。

○ 小沼委員

ありがとうございます。ただ、大宮公園地区環境保全協議会との協議の場だけではなく、もう少し多くの地域住民・県民から、ワークショップなどを行うなど、フラットな意見を集める場を設けるのも良いかと思えます。

○ 事務局

様々なご意見があると思えますので、今後はご相談しながら、改めて進めてまいりたいと考えております。

○ 東角井委員

8ページにある「投資効果を考えた集中的な投資」の項目で、キャッシュレス投票機の導入について触れられています。競輪場には高齢者が多いという話もありましたので、キャッシュレスの導入方法が重要だと思います。

また、会員数が264人という現状ですが、個人的には少ないのではないかと感じます。キャッシュレスの手法を検討して、会員数を増やすことが必要だと考えます。現地で購入する方が買いにくい状況になっていないのでしょうか。

また、中村委員がおっしゃったインターネットでの収益性についても、本来はインターネットの方が効率的だと思います。しかし、現状ではポータルサイトの手数料が過剰に取られているのではないのでしょうか。

キャッシュレス導入についても、埼玉県内だけでなく、JKAや全輪協など全国規模で取り組む必要があると感じます。例えば、埼玉県が全国の競輪場で共通のアプリを開発し、そこで賭けを行うようにすれば、手数料も削減できるでしょう。キャッシュレスの導入方法については、まだ改善の余地があると思えますので、意見させていただきました。

○ 事務局

キャッシュレスシステム「Saica」は、包括業務委託を受けている日本トーターが設計しているもので、重要な施策だと思っておりますので、引き続き推進していきたいと考えています。しかし、会員数に関しては現状ではまだ少ないと感じています。

利便性の確保を図るためにも、キャッシュレスは重要ですので、多くの方に利用していただ

けるよう努力してまいります。

また、インターネット投票に関する手数料の問題についても、民間ポータル企業はシステムの構築などで多額の投資がかかっている状況です。埼玉県だけでなく、全輪協を含む全国の施行者と連携し、適正な手数料について各企業と交渉を進めております。私たちとしては、できる限り手数料を引き下げ、収益を増やすための努力を続けているところです。

○ 小沼委員

キャッシュレス投票についてですが、例えば、現在の264人の会員数がどの程度増えれば費用対効果を達成できるのかという目標があると、プロモーションの方向性も定めやすいかと思います。また、インターネットの収益についても、具体的な目標を定めて進めることで、インターネット投票の伸びを促進する方法が明確になります。そのため、正確な情報をご提供いただけると、我々も判断がしやすくなると思いますので、よろしくお願いいたします。

○ 事務局

ご指摘の通り、費用対効果については、目標を設定し、それに基づいてどれほどの効果が得られるかを確認することが重要だと思います。いただいたご意見を参考に、今後の検討課題として進めてまいります。また、収益性についても引き続き検討していきます。

○ 小川委員

キャッシュレス投票機についての質問ですが、現在、西武園競輪場のみでの導入ということでしょうか。

○ 事務局

その通りです。

○ 小川委員

では、大宮双輪場については、まだ導入しないということでしょうか。

○ 事務局

大宮双輪場に関しては、今後のあり方がまだ確定していないため、設備改修などの方向性が決まった時点で、導入について検討していきたいと考えています。

○ 小川委員

もう1点、スマートフォンから車券を購入できるとのことですが、これは「Saica」を持っていると可能という理解でよろしいでしょうか。

○ 事務局

「Saica」を決済手段として使用することで、スマートフォンからの購入が可能です。

○ 小川委員

それでは、スマートフォンで購入すると手数料が発生するというのでしょうか。

○ 事務局

日本トーターのシステムを経由した場合、手数料はかかりません。

(議題(2) 大宮双輪場のあり方についてについて事務局より説明)

○ 東角井委員

2点質問があります。1つ目は、ライフサイクルコストの建設費用についてです。建設費用が97億円とされていますが、詳細に建設会社に説明して見積もりを取ったわけではなく、玉野、岐阜、小松島の事例をもとに97億円を算出したのではないかと思います。資材の高騰もありますので、建設会社などに確認を取るべきではないでしょうか。小松島では、見積もりが倍増し、計画が見直されたとの記事を見ました。97億円で全ての改修が収まるとは考えにくいので、慎重に算出した方が良くと思います。

2つ目は、大宮双輪場で5年に1度のGI開催とありますが、5年に1度では少し甘い設定ではないでしょうか。

さらに、ライフサイクルコストに関してですが、現在の資料は大宮双輪場の現地建て替えを前提にして整理されているように感じます。ただ、非常に重要な点を見落としていると思います。それは、大宮公園内にある双輪場を移転した場合、約57,000平米の土地が空くという点です。この土地は数百億円の価値があり、そこで収益を生み出す事業はできないのでしょうか。

また、仮に新たな土地を購入し、その価値が30年後に残ることを考慮しないまま、ライフサイクルコストの試算で年間17億円の収益が上がるとするのは、少々簡単すぎるように感じます。大宮公園内の大きな価値を持つ土地をそのまま双輪場として利用し続けることの「もったいなさ」も考慮すべきだと思います。

○ 事務局

まず、97億円の建設費用についてですが、この金額は資材の高騰や人件費の増加も考慮しています。しかしながら、それ以上の費用がかかる可能性もあることは認識しています。コンサルも含め、これらの要素を踏まえた上での試算です。また、現在の競輪場はスタンドが縮小されており、スタンドが小さい競輪場も多いです。そのため、今回の金額は、必要な施設に絞りコンパクトに建設した場合の数字になっています。

次に、GI開催の見込みについてですが、競輪業界では施設改修を行った競輪場でGIレースが開催されることが多いため、コンサルが検討し、5年に1回の開催を目安に設定しました。

最後に、大宮公園内の57,000平米の土地について、土地には大きな価値がありますが、大宮公園内に位置するため、マンション建設などの商業利用が可能かという点、そうではありません。さらに、国有地や県有地も含まれていますので、これらをどう活用するかという話もあります。加えて、売却する想定はしておりませんので、今回の試算には含めておりません。

○ 小川委員

移転の場合に新しい土地を取得した場合、その価値を考慮しないのは不自然ではないでしょうか。その点について、収益だけを見れば良いということでしょうか。

○ 事務局

12ページにあるとおり、土地取得費用は含めています。例えば、ケースAの②移転を見ていただくと、建物費用として97億円、土地取得費用として100億円を見込んでいます。

○ 小川委員

理解しましたが、30年後にその土地を売却すれば、収益が発生しますよね。

○ 事務局

確かに、その100億円の土地を売却することになれば、収益が見込める可能性はあります。

○ 小川委員

ただ、建物を解体する必要もありますし、その時点での地価がどうなっているかは分かりません。ですので、施設を全て解体した後の土地の価値を考慮しなければ、正確な検討が難しい

のではないのでしょうか。

○ 事務局

30年後に事業を終了し、更地にして土地を返還する可能性もあるかもしれませんが、現時点では競輪事業を引き続き継続していくという前提です。30年後の建物の解体や土地の売却については考慮していません。

○ 岩崎委員長

大宮公園は都市計画公園として設置されており、土地の売却による収益を見込むのは現実的に難しいのではないかと思います。

私から1点伺いたいのですが、仮に大宮双輪場が廃止された場合、西武園競輪場の1場体制について、西武園もかなり老朽化が進んでいますが、大宮双輪場を廃止して、西武園1場体制となった場合、民間施設として修繕や改修が必要になると思います。それに伴い、施設利用料が上がる可能性があると思います。運営の負担も大きくなると思いますが、その点についてはどのような前提条件で整理されているのでしょうか。

○ 事務局

資料1の2ページ目に大宮双輪場と西武園競輪場それぞれの利用料実績を記載しています。西武園競輪場に関しては、売上に基づいた利用料が決まっており、現行では本場売上の4.4%などとなっています。

今回のライフサイクルコストでは、今年度の条件をそのまま30年間にわたって適用していますが、ケースA・B・Cでは売上が異なります。利用料も売上に応じて変動しますが、大規模改修はいずれのパターンでも考慮していません。そのため、追加の費用が発生する可能性もあります。

○ 岩崎委員長

施設利用料が上がる可能性もあるということですね。

○ 事務局

西武園競輪場の改修が行われれば、施設利用料が変わる可能性はあります。

○ 小沼委員

まず、移転の際にかかる100億円についてですが、移転後の土地の新たな活用方法を考えると、競輪場よりも収益性の高い利用ができる可能性もあると思います。そのため、単に移転費用として100億円を計上するだけでなく、プラスになる部分も考慮すべきではないでしょうか。

また、もう1つの可能性として、大宮公園内での移転、例えば第二公園や第三公園へ移転するという選択肢も考えられます。その場合、土地取得費用が100億円もかからないかもしれませんが、この点についての検討状況はいかがでしょうか。

もう1つ考慮すべき点として、維持管理費や光熱費があります。私も指定管理の業務に携わっていますが、電気代が大幅に上がっており、昨年から倍近くになっています。試算では維持管理費や光熱費で年間30億円がかかっていますが、これがさらに上がる可能性もあるため、単純に現在の予測どおりに進むとは限らないと思います。

また、現在の資料を見ると、現地建て替えが最も良い選択肢のように見えますが、このようなリスクを考慮すると、廃止が最も安全な選択肢に見えてきます。事務局には、これらのリスクを含めた上で、我々が判断できる材料を揃えていただければと思います。

○ 事務局

まず、移転後の土地活用についてですが、現在大宮双輪場のあり方については検討中です。現時点では、大宮スーパー・ボールパーク（SBP）構想に基づき、第一公園の野球場やサッカー場を活用する計画が進んでおり、来年の2月から3月頃に基本計画を県として策定する予定です。

す。この計画では、賑わいのある空間を作ることを目指しています。ただし、双輪場の今後の方向性によっては、大宮 SBP 構想自体も変わる可能性があります。

確かに、大宮 SBP 構想によって大きな収益を生む施設が生まれる可能性もありますが、公園内での事業となるため、収益性があっても公園施設として適切なものである必要があります。収益性のある施設がどこまで可能かについては、公園部局が主導して検討しており、現時点では明確なことは言えません。ただ、双輪場の方向性が固まり次第、大宮 SBP 構想の基本計画と合わせて議論を進めていく予定です。

○ 岩崎委員長

この委員会では、大宮 SBP 基本計画策定前に双輪場の今後の方針を決定する必要があります。大宮 SBP 構想では誰でも楽しめるような公園を目指すというコンセプトだったかと思いません。施設としては、例えばカフェやジムといった複合施設がどこかに入ることになるでしょう。サッカー場や野球場の下に入るか、複合施設として別途設けるか、双輪場を含む形で設計するか、さまざまな可能性があります。

現在の状況を見ると、競輪場は走路+α という形になるかもしれません。観客席などの設備は、他の施設と連携する形で設置することも考えられます。こうした意見を積極的に出していただければと思います。

○ 栗原委員

逆に大宮 SBP 構想の中で双輪場に移転を求めるようなことも考えられますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○ 事務局

前提として、大宮 SBP 基本計画を作成する際には、公園部局がゾーニングなどの議論を行い、どこにどの施設を配置するかなどを決めていく予定です。その際に、第一公園内の双輪場や野球場についても議論されることとなりますが、双輪場は公園施設として県が運営している一方で、開催運営は我々が担当しています。したがって、競輪事業が今後どうなるかを先に明確にした上で、大宮 SBP 構想に沿ったゾーニングが行われることとなります。

○ 小沼委員

2点あります。1つ目は、先ほど「公園内だから収益性を考えた施設が難しい」という話がありましたが、例えばカジノのような極端な例ではなく、大宮公園に美術館など文化的な施設があればよいのではないかと思います。収益だけでなく、文化的価値を高める施設のアイデアを検討する余地があるのではないのでしょうか。

2つ目は、PFI（民間資金の活用）の話も出ていますが、双輪場を残すことを前提として、民間の自由なアイデアの阻害要因になってしまうのは避けるべきだと思います。

また、双輪場をどうするかについて、現状では、我々としても廃止すべきだとは決めにくい状況ですが、埼玉県競輪事業全体の将来像について、さらに議論を深める必要があると思います。双輪場を存続させるなら、どのような形が良いかも考えたいですね。

例えば、1号館や6号館は現在使っていないとのことですが、それでも維持費はかかります。いっそ壊してしまい、双輪場をコンパクトにし、そのスペースを地域の人々が楽しめる場所として活用するのも一案です。大宮公園全体を見据えた活用法も検討すべきだと思います。

○ 事務局

大宮 SBP 基本計画を策定する際には、民間企業へのサウンディングも行われますので、様々なアイデアが出てくるかもしれません。我々としても、競輪事業を継続するかどうかの議論は重要ですし、引き続きご意見をいただけるとありがたいです。

現在、老朽化している施設も多いため、一度に壊してしまった方がコストを抑えられるという見解もあります。

また、2023年度から入場料が無料化されており、イベント時にはキッチンカーを導入するなど、公園全体と連携した取り組みを進めています。今後もこの連携を強化していきたいと思っ

ています。

○ 東角井委員

大宮双輪場の今後のあり方は非常に難しい問題だと思います。千葉市では TIPSTAR DOME CHIBA の 250 メートルバンクが屋根付きで作られましたが、それが成功しているかどうかは私には分かりません。埼玉県も将来を見据えて、同様の施設への投資が利益を生むのか、慎重に考える必要があると思います。

もう一つの点として、双輪場が移転する場合、候補地周辺の住民の理解が得られない懸念があると記載されていますが、大宮双輪場周辺の住民に対してはアンケートなどを行っているのでしょうか。自治会長レベルの方々にはヒアリングをしているかもしれませんが、広範な住民に対しては行われていないように思います。若者から高齢者まで幅広い意見を収集し、現状の理解度を確認すべきです。

地元住民の意見をしっかりヒアリングし、大宮公園をどう活用してほしいのかを調査することが重要です。行政が新しい事業を進める際には、こうした住民の意見を取り入れるべきです。

○ 小沼委員

私も資料を読んで気になっていた点があります。「理解が得られない懸念」と書いてありますが、そもそも競輪場が理解されていない施設だと思われかねません。現在の表現では、競輪場が住民に理解されていないという印象を与えてしまいます。

○ 事務局

「理解が得られない懸念」については、基本的には移転する場合の話として記載しています。これは、ギャンブルに対して抵抗感を持つ方がいることが理由です。イベントなどを通じて理解を深める努力はしていますが、ギャンブル依存症に対する嫌悪感を持つ人も多く、そのためにこの表現を使わせていただきました。

また、千葉の関係は、現時点では成功しているかは判断できません。千葉市が土地を所有し、その上に（株）JPF が競輪場を建設し運営していますが、250 メートルバンクはオリンピック自転車競技のような形式で行われており、既存の競輪ファンが多く参加している状況ではまだありません。そのため、慎重な検討が必要です。

周辺住民に対するアンケートについては、確かに実施していません。自治会の集会を活用するか、アンケート形式が適切かどうかを含めて、今後検討していきたいと思います。

○ 小沼委員

理解が得られない懸念については、「理解が得られるまで時間がかかる」というような表現が適切だと思います。そうしないと、大宮公園周辺の住民が理解を得られないまま我慢を強いられていると受け取られてしまう可能性があります。

また、千葉の事例についても、試合の日程が原因である可能性があり、もっと効率的に試合を行うことで、収益性が向上するかもしれません。今の説明によれば、競技が増えて競輪を開催できていない状況があるとすれば、日程の組み方次第で改善できるのではないかと思います。

○ 事務局

「理解が得られるまで時間がかかる」という表現はその通りだと思いますので、修正いたします。また、千葉市の件については、中村委員にご説明いただければと思います。

○ 中村委員

千葉では基本的に土日に競輪が開催されているため、日程が悪いというわけではありません。ただ、千葉だけが 250 競走を行っているため、浸透しづらい面があるかと思います。時間はかかるかもしれませんが、徐々に広がる可能性はあります。この 250 競走は、新しいお客様を創出するために競技視点から始めたものですが、現状では辛抱強く見守る状況が続いています。

す。

日程については JKA が決めているわけではなく、基本的には施行者同士で調整しています。

○ 小沼委員

私が「日程が悪い」と言ったのは、土日の開催に関してではなく、賭けの対象となる試合の割合が少ないのではないかとということです。

○ 中村委員

その点については、すべての競走が賭けの対象となっています。

○ 小沼委員

それでも、これだけインターネットが普及している中で、千葉の人气が低い理由が理解しづらいです。例えば、インフォーマルな競走が賭けの対象として人气がないのでしょうか。私たちとしても、まだ理解が十分でない中で判断が難しい状況にあります。

今後、どのような判断をしていくべきか、正直迷っているところです。現在、メリット・デメリットを整理していただいています。私たちの知識や理解が不十分な部分があり、この5つの案の中でどれが最適かを判断するのは難しいと感じています。

○ 小川委員

前提として、現在の場所で建て替えを行う期間、競輪のレースは開催できるのでしょうか。もしできない場合、開催を中止する期間はどれくらいになるのでしょうか。

○ 事務局

改修中という形であれば、他の競輪場を借り上げて開催することが可能です。例えば埼玉県では改修中の部分は西武園競輪場で対応できる範囲内で行うことが可能です。したがって、改修中でも競輪を開催できないわけではありません。

○ 小川委員

それでは、改修を行う場合は、そのような方向で進めるということによろしいでしょうか。

○ 事務局

改修期間中は他の競輪場を借りて対応する予定です。最も現実的な選択肢としては、西武園競輪場で大宮分を開催するのが最適かと考えています。

○ 小川委員

ただ、西武園競輪場を利用する場合、立川競輪場との調整が必要ですが、その点について開催は難しくないのででしょうか。

○ 事務局

立川競輪場とは競輪が被っていない日を確認することで調整が可能だと考えています。

○ 小沼委員

それでは、大宮競輪が西武園競輪場を借り上げて開催する場合、収益は大宮のものとして計上されるのでしょうか。それとも、2年間は開催できず、収入がないという試算になるのでしょうか。

○ 事務局

ライフサイクルコストの試算は、新競輪場が完成する令和12年度から令和41年度までの30年間で行っています。新しい競輪場を建設するためには、計画段階で1.5年、建設に3.5年、合計5年を要するという説明をさせていただきました。

この5年間については、現在地で建て替える場合も、別の場所で建て替える場合も、いずれにしても現行の大宮双輪場は解体する必要があります。しかし、解体期間中も別の場所を借りて大宮分の競輪を開催することが可能です。

立川競輪場との調整や、西武園競輪場に対する使用料の支払いといった問題は確かに出てきますが、大宮双輪場の収入が完全にゼロになることはありません。

○ 岩崎委員長

皆様から様々なご意見をいただきましたが、今後、意見のとりまとめを行うために、何か追加で資料が必要であれば事務局にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○ 東角井委員

ライフサイクルコストについて、今後30年間を検討する中で、GI開催の令和5年度を基準にしているのは少し楽観的すぎるのではないかと感じています。GI開催で売上が上がるとしても、その年度を基準に30年間を計算するのはリスクがあります。5年間の平均値を基にするなど、もう少し精査する必要があると思います。

また、30年後・2050年には埼玉県では人口が減少すると予測されています。その状況下で大規模な施設を建設して競輪事業を継続できるか懸念があります。今後は大規模施設で収益を上げるといって時代でないと感じます。

ですので、廃止もしくは移転で他の土地が安い場所に新しい競輪場を建設して既存のファンを引き継ぎ、年間5億円程度の収益を得る方が現実的だと思います。大宮公園内に再度競輪場を建設するのは、私としては100%あり得ないと考えています。

○ 岩崎委員長

存続や廃止の判断については、財政への貢献が最も重要な要素かと思っています。特に、競輪事業がどれだけ財政に貢献できるのか、その点を精査する必要があります。

東角井委員からは、GIの試合頻度など、もう少し厳密な数字を求める意見がありました。例えば、何年に1回の開催なのか、または過去5年間の平均や3年の平均値などを基に、もう少し精度の高い数字が必要だという指摘でした。

さらに、双輪場を廃止した場合、施設使用料や管理費が増加する可能性があります。それを数字で正確に示すのは難しいかもしれませんが、そうした点も考慮して、本日出たご意見や質問をもう一度整理し、次回の会議で方向性を取りまとめる形にしたいと思います。

○ 事務局

次回の会議では、今日いただいた課題やご質問に対して整理し、回答します。

○ 岩崎委員長

それでは、その内容を集約し、できれば早めに資料を皆さんに送ってご検討いただく形をお願いします。また、今の時点での意見を伺わせていただければと思います。

○ 栗原委員

現時点での意見として、大宮公園は非常に潜在能力が高いエリアだと感じています。現状の双輪場よりも、もっと活用の余地があるのではないかと考えています。競輪場ありきの考え方ではなく、他の可能性を検討することも必要ではないかと思っています。

一方で、大宮双輪場の公共的な役割も重要だと思います。前回の地元住民のヒアリングでも、その観点が重要だと感じました。

もし現在地に競輪場を存続させるのであれば、カフェやレストランなど、競輪以外の要素も含めた公共に資する形態にできるなら、存続もあり得ると思います。

○ 小川委員

来場者数は前年度と比較して増加していますが、これは競輪に来た人だけでなく、イベントに参加した人も含まれているのでしょうか。

○ 事務局

基本的にはその通りです。

○ 小川委員

インターネットでの車券購入が増えており、実際の来場者数は大きく減少しているため、大宮公園内に大規模な競輪場がなくても良いのではないかというのが正直な意見です。複合施設として、競輪専用でない施設にするならば、競輪場を残しても良いかもしれません。

大宮公園は非常に広くて素晴らしい施設ですが、競輪場だけに57,000平米を使うのはもったいないと思います。建替え後の施設が具体的にどのような形になるかが見えるなら、存続も選択肢の一つとして考えられますが、現状と同じような状態であれば、廃止もやむを得ないのではないかと思います。

○ 事務局

メリット・デメリットの項目にも記載しておりますが、大宮公園は都市公園法の適用を受けるため、競輪専用の施設は基本的に認められません。多目的・複合的な施設として、カフェやBMX、自転車競技の施設などと複合させなければ、存続は難しいと思います。

競輪場としては、必要最小限の施設、例えばメインスタンドやバンク、選手管理棟は維持する必要がありますが、他のスタンドなどは縮小可能だと考えています。できる限りコンパクトにすることが目標ですが、多目的機能も併せ持つ形を検討していただきたいと思います。公園に相応しい施設として、複合的な機能を持たせることが重要です。

○ 小川委員

個人的には、ボルダリングなどの施設があれば若い人も集まるので良いかと思います。スケートは少し危険かもしれませんが。

○ 事務局

バンクの内側がデッドスペースになりがちなので、その活用や開放を考えていきたいと思っています。スケートを実施できる場所もありますし、利用者が活用できる複合型施設にしていくことが理想です。

○ 小沼委員

現時点では、双輪場を存続させる必然性は少ないと感じてしまう資料となってしまうのではないかと思います。30年間の計画も長すぎる気がしますし、県が投資をしてまで双輪場を残さなければならないという議論が十分にできていないように思います。ただし、双輪場が選手にとって重要な場であったり、社会貢献の側面もあるため、その点についてポジティブな要素を整理できれば良いと思います。

もし、大宮SBP構想がPFIのように民間資金で進行する場合、双輪場があることで他の施設計画が阻害されないようにする必要があります。行政としては、大宮公園がどうあるべきかをしっかりと管理・監督することが重要です。そのような議論をしないと、私は双輪場の存続は難しいのではないかと考えています。

○ 中村委員

競輪を行う団体として、廃止という話は少し寂しいと感じます。大宮双輪場は自転車競技場としてスタートした経緯もあります。競輪選手だけでなくアマチュアの利用も多いです。オリンピックの種目にもなっており、競技者のレベルもどんどん上がっているのです。その意味でも双輪場の存続を望みます。

○ 岩崎委員長

競輪事業は公営ギャンブルの一つであるため、財政貢献が将来にわたってどれほど見込めるかが重要です。また、自転車競技場として自転車振興をどう考えていくかという点も大切です。前回のヒアリングでは、埼玉県自転車競技関係者から大宮の立地が非常に良いという話

がありました。

しかし、競輪場が公園内で共存するためには、公園全体の利用と活性化をどのように図れるか、付加価値のある施設でなければと考えます。

例えば、施設の軽量化を図り、コンパクトな走路と簡易な施設にするか、あるいはスポーツ施設や文化教養施設、カフェやレストラン等を併設する複合施設にするのか、まだ具体的な形は見えていませんが、その方向で検討する価値はあると思います。新しい形の自転車競技場や複合施設として、防災機能を付加することも必要と考えます。地震や水害など頻発する自然災害に備え、大宮公園が市街地の中心にあることから、貯留施設や避難場所としての機能を持たせることも考えられます。

さらに、大宮 SBP 構想との位置付けも重要です。委員からご意見もありましたが、第一公園ではなく、第二公園に公園内で移すことも一案です。こうした複合施設をどう作り上げるかについて、さまざまな意見を伺いました。

本日いただいた皆様の意見を基に、次回の会議で検討を進めたいと思います。これで本日の議論を締めさせていただきます。

○ 事務局

資料でもご説明させていただいた通り、次回の検討委員会は10月下旬頃を予定しております。改めて日程調整のご連絡をいたしますので、よろしく願いいたします。また、今回の議論は公開とさせていただきますので、ご承知おきください。

○ 岩崎委員長

それでは、本日の議事は以上とさせていただきます。

○ 事務局

岩崎委員長、ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、長時間にわたりお疲れ様でした。これをもちまして「第10回埼玉県競輪事業検討委員会」を終了いたします。

以上